



発行/白鷗大学 小山市駅東通り2-2-2 TEL:0285-22-1111 https://hakuoh.jp

- 2面 白鷗大学フォーラム、メディアパーク 他
- 3面 男子バスケ部関東選手権初優勝 他
- 4面 ラグビー部監督紹介 他
- 5面 バスケ部監督対談
- 6面 シンポジウム、IBインカレ
- 7面 2018年度決算報告
- 8面 教員コラム、入学式 他

令和新時代の 白鷗大学がめざすもの

学長 奥島孝康



行動力がなくては、人生をより深く生きることにはならない。それが大局観と行動力が必要な所以である。

さて、われわれはこの教育法をリベラル・アーツと呼ぶ。そして、人間形成に最も重要なこの時期の教育をギリシア以来のリベラル・アーツと呼ぶ。その基礎の上に、大学の専門教育は築かれることが必要となる。

白鷗大学では、学祖(初代学長)上岡一嘉先生はその建学の当初から、時代を先取りして英語教育と情報教育を最重視してきた。その含意は、大学におけるリベラル・アーツ教育の重視であり、そのめざすところは、若者に大局観と行動力を身につけさせるための教育であった。

つまり、われわれは、なによりも人間として立派な若者を育てることをまずめざすべきである。動機(モチベーション)とか意欲(志)というものは、シフトウラム・ウント・ドラング(疾風怒濤)の時代である青春の一期に決するものであることを考えると、この時期にリベラル・アーツを学ばせることはきわめて重要であろうと思われる。わが大学では、まずそこをめざす。

大学生となつてやっと解き放される開放感、あるいは若き日の情熱の爆発力は、いわば人間としての原点をつくる大切な出発点であり、人間性の形成にとって最も大切なものである。若者たちには、まず社会あるいは世界の全体像をしっかりと把握することが必要であり、次いでその動きに自分を参加させることが肝要である。暗闇の中でただ暴れまわるだけでは、暴発であるときはいよいよがない。また、どんなに全体が見えようと、自分のめざすところに積極的に参加するという意欲と

その選択をある程度決めることができれば、その先は本来は大学院教育であろう。大切なことは、この少数の研究者をめざす者の教育ではない。めざすべきは、社会人として立派に通用する人間を創る教育である。極論すれば、ギスギス・ウジウジした人間ではなく、ニコニコ・イキイキした人間の育成である。わが校の卒業生たちが社会から歓迎されるのはそのせいである、といわれるような大学になりたいと思う。

就職率 過去最高の99.0%
公務員 103人が合格
教員採用試験 過去最多の205人が合格

■**公立幼稚園・保育園・認定こども園への就職** (認定こども園を含む)

年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
幼稚園	50人	34人	49人	39人	56人	43人	34人
保育園	54人	44人	43人	37人	47人	45人	59人
合計	104人	78人	92人	76人	103人	88人	93人

■**小中高教員採用試験合格者数の推移**

年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
	19人	22人	41人	31人	53人	76人	112人
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	合計	
	123人	122人	169人	171人	205人	1,144人	

白鷗大学の就職率はここ数年過去最高を更新し続けており、今年も99.0%と、過去最高であった昨年度の98.7%を上回る結果となった。これは、本学のキャリアサポートセンターによる、きめ細やかな支援と学生の努力によるもの。公務員試験では、栃木県警察本部の21人をはじめ警察に37人が合格。栃木県庁などの県市町村職員には34人、消防官に11人、公立保育士に16人、自衛官に5人それぞれ合格した。

公務員試験の力試しや、就職活動の際に法学の力を客観的に証明するために、「法学検定試験」を受験する学生もいる。同試験は、公益財団法人日弁連法務研究財団と公益社団法人商事法務研究会が共同で組織した法学検定試験委員会が実施している。法学に関する学力を客観的に評価するわが国唯一の検定試験だ。ベーシック(基礎)コース、スタンダード(中級)コース、アドバンス(上級)コースの3コースがある。本学では、昨年12月に実施された法学検定試験で、スタンダード(中級)コースに35人が合格した。各コース20人以上が受験した団体を対象とする団体賞で、本学は「合格者数の部」で第3位の成績を収めた。こうした学生の努力の積み重ねが、就職率や公務員試験合格に繋がっている。

**白鷗大学・上越教育大学
連携・協力に関する協定書調印式**

調印後、記念撮影する奥島孝康学長(左)と川崎直哉学長

**上越教育大学と
連携協定を締結**

上越教育大学との教員養成に関する連携・協力協定を締結する調印式が昨年11月5日、JR小山駅東口の本キャンパスで行われた。相互に連携協力を推進することで、それぞれの活動の充実を図るとともに、地域の発展に寄与することを目的としたもの。具体的には、本学の学部生が、上越教育大学の大学院に進学する場合に入学料の優遇措置などを行う。

式には上越教育大学の川崎直哉学長をはじめ、本学からは上岡一嘉学長が出席。挨拶した奥島孝康学長は「教員を目指す学生が大学院で学べることは大きなメリットになる」と期待を寄せた。本学が他大学と連携協定を締結するのは、今回が初めて。連携協定後の今年4月に、本学の卒業生2人が、この連携により上越教育大学の大学院へ進学した。今後のさらなる連携が期待される。

白鷗大学フォーラムを開催

第12回白鷗大学フォーラム in 小山が12月1日、本キャンパス白鷗ホール(現・白鷗国際ホール)で開かれた。今回は、白鷗大学と交流協定を結んでいるハワイ大学の協力を得ての開催となった。白鷗大学の奥島孝康学長のあいさつに続き、白鷗大学ハンドベルクワイアの演奏で開幕。「フェイクニュースと政治―ネット社会への警鐘―」というテーマの下、日米メディアについて考察された。



両大学のさらなる友好を宣言する関係者たち

例年、同フォーラムは東京で開催してきたが、今回はJR小山駅東口前に新校舎が完成したことを記念し、初めて小山市で開催した。なお、2019年、同フォーラムは、11月に東京で開催予定だ。



サイバー攻撃の脅威を解説する池上氏



メディア理解の促進を訴えるラズナー総長



日本におけるフェイクニュースを分析する後藤教授

白鷗大学とハワイとの交流、そして世界へ

白鷗とハワイとの関係は、1975年白鷗女子短期大学時代の第1回ハワイ研修にまでさかのぼる。同研修は現在も続いており、今年で45回目を迎え、のべ2500人が参加した。2008年にハワイ大学コミュニティ・カレッジと交流協定を締結。2010年にはハワイ大学マノア校と交換留学に関する協定を締結。以降、両大学学生の交換留学や、ハワイ大学学生の日本研修受け入れ等が積極的に行われている。



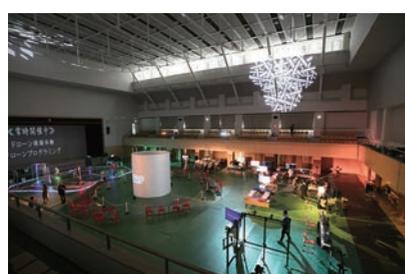
会場となった白鷗ホール

国際交流は、日常的にキャンパス内でも行われている。「国際交流ラウンジ」では、本学で学んでいる留学生との交流が気軽に行われている。世界を身近に感じられる環境は、異文化理解やグローバルな視野を育む上で、必要不可欠である。本学は、ハワイ大学以外にも17大学と交流協定を締結している。

メディアパークを初開催

第12回白鷗大学フォーラム in 小山にあわせて、12月1日、2日の2日間、本キャンパス白鷗アリーナで、「体験型メディアパーク―最新技術を体感しよう―」が開催された。これは、経営学部の菅野嘉則教授とゼミ生が中心となって企画されたもの。

ドローンの操縦やVR(バーチャルリアリティ)の体感、モーションキャプチャーの体験コーナーなどがあり、子どもから中高年まで幅広い年齢の来場者でにぎわった。また会場にはカフェも併設され、中央に設置された円柱型スクリーンへの360度プロジェクションマッピングを眺めながらコーヒートを味わう来場者もいた。



白鷗アリーナ全面を使った会場

当日の運営に係わった経営学部4年の伊沢誠聡さんは、「私が担当した『マイクドローンレース』では、レース中にドローンのカメラ映像をスクリーンに上映し、スピード感と迫力を演出しました。ドローンの操縦体験やプログラミング飛行も好評で、今まで触れたことがなかった方たちにもドローンの可能性を感じてもらえたのではないかと思います。ほかにもプロジェクト3Dプリンターといった技術をお客様に伝えるという経験は、普段の勉強以上に多くのものを学べたと思います。」と感想を話した。



来場者にVRを説明する学生スタッフ

白鷗国際ホールに改称

本キャンパスの白鷗ホールが、このほど「白鷗国際ホール」へと名称が変更された。これは、2018年12月に開催された白鷗フォーラムにおいて、本学とハワイ大学のさらなる友好が宣言されたことを記念したもの。

これを記念して、6月20日、除幕式が行われた。式では、ジョン・モートン評議員(前・ハワイ大学副総長)と奥島孝康学長による除幕とあいさつが行われた。今後同ホールは、学内のみならず、知と情報の拠点、地域に開かれた大学として広く活用される。



関係者のサインが刻まれたプレート



序幕した奥島学長とモートン評議員



男子バスケットボール部が 関東選手権初優勝



HAKUOH SPORTS HAKUOH SPORTS

男子バスケットボール部が「第68回関東大学選手権大会」の頂点に輝いた。同部23年間の歴史の中で同大会の優勝は初となる。

5回戦から登場した同部は、準々決勝で昨年のインカレ王者・東海大を下すと、準決勝でも強豪の専修大を破って決勝に駒を進めた。

決勝戦は、大会4連覇を狙う筑波大との対戦。2年前の同大会決勝では57-115で完敗しており、当時を知るメンバーは雪辱に燃え試合に臨



中川 倫 (PG)



ディオップ・マムシエッハ・イブラヒマ (C)



胴上げされる網野監督

んだ。開始直後は2-10と劣勢に回ったが、粘り強いディフェンスからのターンオーバーを重ね、第2クォーターで逆転し37-28で前半を折り返した。後半は相手のゾーンディフェンスに苦しみながらも、21センチのディオップ・マムシエッハ・イブラヒマ選手(経営学部4年)を中心に、ゴール下で圧倒。前田怜緒選手(教育学部4年)や星野曹樹選手(経営学部4年)らが果敢に攻め、猛烈な追い上げをかわして66-58で

栄光を掴んだ。個人賞でも最優秀選手賞に前田選手、優秀選手賞に中川倫選手(教育学部4年)、イブラヒマ選手が輝いた。



前田 怜緒 (FW)

第68回関東大学バスケットボール選手権大会の戦績

5回戦	白鷗大学	102 - 47	明治学院大学
6回戦	白鷗大学	87 - 63	国士舘大学
準々決勝	白鷗大学	63 - 58	東海大学
準決勝	白鷗大学	78 - 69	専修大学
決勝	白鷗大学	66 - 58	筑波大学



「大学のスローガン『PLUS ULTRA』さらに向こうへ」のように、去年越えられなかった準決勝を乗り越え、2度目の全日本制覇目指して頑張ってきた」と大会に向けて目標を語った。

軟式野球部

春季リーグ戦、 全勝優勝 12回目の全国大会へ

軟式野球部が4月6日から5月4日の期間に開催された北関東大学軟式野球連盟春季リーグ戦で優勝を果たし、2年連続12回目の全国大会出場を決めた。

最終節は強豪の作新学院大との対戦。序盤先制するも3回に逆転を許し、終盤まで追う展開だったが8回に連続ヒットで逆転し、4-3で勝利した。また個人賞では

同部は8月18日に長野県で開催する第42回全日本大学軟式野球選手権大会に出場。20日の2回戦から登場し、日本大学経済学部(東関東代表)と信州大学松本キャンパス(長野県代表)の勝者と対戦する。金田健史監督は「大学のスローガ

バスケットボール部 監督対談



女子・佐藤智信監督 × 男子・網野友雄監督

あみの・ともお
1980年9月25日、東京都生まれ。
筑波大学大学院卒。トヨタ自動車、アイシンシーホース、リンク栃木プレックスでプレーすることにも、日本代表としても活躍。2017年、本学男子チームの監督に就任。教育学部講師も務める。

さとう・としのぶ
1967年1月4日、福岡県生まれ。
福岡教育大学卒。米国ケンタッキー大学でコーチング研修後、日本リーグ積水化学工業の女子チームのアシスタントコーチに就任。1996年、本学女子チームの監督に。2015年からは経営学部の特任講師も務める。

八村塁選手が日本人として初めて、米プロバスケットボール協会(NBA)でドラフト1巡目指名を受けると、日本での関心がこれまでに高まっている。バスケットボール。白鷗大学では、男女のチームが活動し、女子は2016年、初めて全日本大学選手権(インカレ)のタイトルを手にする活躍を見せている。チームを率いる男女各チームの指揮官に、バスケットボール界の現状やバスケットボールを通じた人材育成などについて聞いた。

——八村選手がNBAでドラフト1巡目指名を受け、国内ではBリーグの人気が高まっていますが、今、バスケットボールへの関心が高まっていますが、この現状をどのように感じていますか。

【網野】 劇的に注目度が上がってきていることを実感しています。八村選手がドラフトで指名された際、毎日のようにテレビで取り上げられたことはまるで夢のような感じで、自分の選手時代とは雲泥の差です(笑)。何よりも、ファンをはじめ多くの方に見られるというところは選手の成長につながり、活躍の如何によって周りの反応も変わるので、選手自身が危機感を持ってプレーをするのではないかと思います。



一方で、バスケットボールへの関心が高まってきたこともあって、プロ選手となってBリーグで活躍しているのも事実です。

【佐藤】 八村選手の活躍以外でも、Bリーグができて約3年が過ぎ、メディアに取上げられる機会も増えてきました。女子は、アジアカップでの優勝、リオデジャネイロ五輪で8位に入賞するなど今までバスケットボールを知らなかった方々の目にも触れる機会が増え、選手たちもやりがいを感じられるようになってきていると思います。

女子の場合、代表チームで活躍したいといった夢が持てるような環境にはなっています。白鷗大学のバスケットボール部にしても、私が監督に就いた24年前とはかなり状況は違ってきています。

——女子の場合、大学日本一も果たし、入部してくる選手の意識にも、創部当時と比較して変化があるのではないかと思います。

【佐藤】 関東大学リーグ1部を主戦場とし、ここ10年ぐらいいは、日本一になるために入部してくるという子が増えてきました。

監督就任当時、「常に日本一を争うような常勝チームをつくる」「国際的に通用する選手を育てたい」「将来もバスケットボールに携わり、指導できる立場になるように育てたい」「地域への貢献」ということを目指してやってきましたが、それが少しずつ形になりつつあるかなと感じています。

——特に男子は、大学バスケットボール界も注目されていますが、感じる課題などはありますか。

【網野】 大学バスケットボール界をどう強化するかということが、日本全体の中でも大きな課題であると感じています。組織的な問題から一貫性を持った選手強化が難しい状況にあり、現場に立つ者からすると頭を悩ませる問題です。

今、アンダー22の強化にも関わっていますが、A代表のコーチがアドバイザリーコーチとして入り、A代表でやっていることを直に落とし込んでくれています。年代ごとの全カテゴリーを通じた一貫通貫の本格的な指導が始まりつつある状況にあり、課題が解消される方向にむかっていることから現場もやりやすくなるのではないかと思います。

一貫性を持った強化策が整えば、選手たちも、日本のフル代表へつながっている意識、重みというものを

もっと強く感じるようになるのではないのでしょうか。——卒業生には、男子ではBリーグ、女子でもWリーグで活躍する選手がいます。そのような先輩たちの姿を見てどう感じているのでしょうか。

【網野】 野崎零也、長島蓮(ともに群馬クレインサンダース)の両選手は、年代が近いこともあり、どのぐらいいの実力があればプロでやっていけるのかというイメージはついていてと思います。何れにしても、プロというのは憧れの存在にはなっています。

本気でプロを目指している選手には、「試合で結果を残さないと見てくれないよ」と伝えているので、特に4年生は、8月24日に始まるリーグ戦は「勝負だな」と思っている選手もいるでしょう。

【佐藤】 今、トップリーグでやっている選手は、オフ期間になると必ず(白鷗大学の練習に)来てくれます。それらの選手と接することで、身近な目標として刺激を受けている選手はいます。

自分の監督就任当時、選手はバスケットボールを楽しくやればよいという感覚でプレーしていたのがほとんどだったので、現在とはまったく違いますね(笑)。——白鷗大学のバスケットボール部の強化等についてはどのようにお考えですか。

【網野】 もちろん強化というのも大切ですが、前提が大学生なので、各種大会での優勝、日本一ということを目指しながら、そこへ向かっていくプロセス、人間関係の構築、努力していく重要性などを学んでいってほしいというのが第一です。自分は指揮を執って2年目ですが、プレー上では、自分はまだ細かく言わない方で、導入部分の指導と考えさせることがメインです。

ただ、あまり(選手に対して)言わないので、「もっと教えてほしい」「細かく指導してほしい」などと、不満を持っている子もいるかもしれません(笑)。

現在、約50人の選手が所属していますが、試合では15人がベンチに入り、実際に試合に関わるのは10人ほど。当然、チーム内での競争意識も持たないとやっていけないので、時には発破を掛けたりもします。また、メンタル面での波もあるので、意図的に話しかけたりして、結構気を使っています(笑)。

【佐藤】 監督就任当時は、高校の先生方の顔も全く知らなかったのですが、営業マンのように学校に顔を出して、選手の発掘に努めていたことを思い出します。

一定のレベルを保ち続けて、いつでも日本一を目指して勝負していくことは容易ではありません。繰り返しになりますが、就任当初から掲げてきた「常に日本一を争うような常勝チームをつくる」「国際的に通用す

る選手を育てたい」「将来もバスケットボールに携わり、指導できる立場になるように育てたい」「地域への貢献」ということを常に意識しながら指導を続けていきたいと考えています。

——今後、白鷗大学のバスケットボール部をどのような方向に持っていきたいのでしょうか。

【網野】 全国の中でも強豪校に在ることを維持しながら、地方大学としての存在感を示し、全国の方に知っていただけるようにしたいです。「白鷗大学でバスケットに取り組んだらすぐ成長できるな」と感じてもらえるチームにしていきたいです。

最終的には、学生たちが卒業していくときに、「白鷗大学に来てよかった」などと思ってもらえ、卒業後であっても顔を出してくれ、母校を愛してもらえ、チームになればいいなと考えながら、指揮を執っています。

【佐藤】 自分で考え、自分で行動できる人間を作りたいです。つまり、自立と自律を実践できる学生を育てていきたいと常に考えてやっています。それがあつてのバスケットボールなのではないでしょうか。

ヒントは与えるけど、上手くなるためにはどうすればいいのか考え、行動に移すのは自分であるという自覚を持てる人、チームになつていけばと思っています。

勝つことによって意識も変わってくるので、監督就任時から比較すると、そういう面では、チームの文化として育まれてきているとも感じています。

大学でバスケットボールをやっている間は、社会に出るまでの猶予期間でもあります。ですから、人間力を高め、社会人として当たり前のことが当たり前にできるようになることが、一番大切なことだと思っています。

——2022年の栃木県での国体を控え、栃木県をけん引する役目もあるかと思っています。

【網野】 ここ数年、国体チームのメンバーにも入れていただいています。リーグ戦との兼ね合いもあり、国体の時期は日程調整等で難しい面もあるのですが、栃木県出身の選手などを送り出すことで、県内の強化につながればと考えています。

【佐藤】 私たちのチームが、メディアに出たりすることに

よって、地域の方々も身近に感じ、目標に思ってもらえるようにしていければと思います。それにより、私自身や選手たちとふれあひ、指導する機会などがあれば、それらの活動を通じて地域を盛り上げていければと思っています。



白鷗大学法政策研究所が主催した講演会・シンポジウム(過去5年)

開催日	内容
平成25年5月14日	講演会 演題: 若者はどんな時代をきているのか
平成25年11月15日	主催: 日本台湾法律家協会 / 共催: 白鷗大学法政策研究所 日本台湾法律家協会 2013年度(第18回) 学術研究総会 テーマ: 個人情報保護の問題、取調べの可視化
平成25年12月2日	シンポジウム 演題: 「北関東の法律問題」—夫婦・親子をめぐる法的問題—
平成26年5月28日	講演会 演題: 「台湾の政治発展と司法制度について」
平成26年12月1日	シンポジウム 演題: 「北関東の法律問題」—相続・遺言について—
平成27年6月26日	シンポジウム 演題: 「北関東の法律問題」—近隣関係における法律問題—
平成27年10月22日	講演会(後援 小山商工会議所) 演題: 「事業承継と会社法改正」
平成28年10月21日	講演会 演題: 「刑法から見た我が国の鉄道」
平成29年11月29日	講演会 演題: 「政治のこれから〜足尾鉍毒事件とリベラル・デモクラシー〜」
平成29年6月21日	公務員採用・資格支援部会との共催 行政書士を希望する学生のための講演会
平成30年5月17日	白鷗大学法学部との共催 特別講演会 演題: WHY IS THE US SO PUNITIVE? 邦題: なぜアメリカはここまで厳罰的なのか?
平成30年12月1日	シンポジウム 演題: 福祉施設内の権利擁護と虐待防止に向けて—行政と法はどう対応すべきか—
平成30年12月22日	講演会 演題: グローバル立憲主義と比較憲法学の展望—「市民社会」志向の憲法学は可能か?—
令和元年5月18日	白鷗大学法学部との共催 演題: 国際シンポジウム「裁判員制度と検察審査会強制起訴制度の10年—国際的視点を交えて」

裁判員制度施行から10年 国際シンポジウムを開催

国際シンポジウム「裁判員制度と検察審査会強制起訴制度の10年—国際的視点を交えて」(白鷗大学法学部・白鷗大学法政策研究所共催)が5月18日、本キャンパス白鷗国際ホールで行われた。これは、今年で裁判員制度と検察審査会強制起訴制度開始から10年の節目を迎えるにあたって開催されたもの。本シンポジウムは、公益財団法人社会科学国際交流江草



シンポジウムの司会をする平山教授

基金から国際研究会助成を受けて開催された。本法学部の平山真理教授や、國學院大學の四宮啓教授ほか国内外から専門家を招請し、講演や、日本、アメリカ、ベルギーの司法制度を比較しながらディスカッションが行われた。会場には、学生や一般の方も含め132名ほどが参加し、制度の現状や課題について理解を深めた。また、当日は、平山ゼ



シンポジウム終了後の登壇者

ミの学生がシンポジウム運営を手伝った。日ごろの授業や学生生活では得ることのできない貴重な経験となった。その後7月3日には、在学生向けに裁判員制度の出張説明会が行われた。現職裁判官から裁判員制度の仕組みや、現状、今後等について紹介され、多くの学生が参加した。

IBインカレ 今年11月に本学で開催

「第9回国際ビジネス研究インターカレッジ大会(IBインカレ)」が、2019年11月30日に本キャンパスで開催される。同大会は、国際ビジネスをリードするグローバル人材の育成を目的として行われており、全国の大学の国際ビジネスを研究しているゼミナールが研究成果を学術論文で提出のうえ、その内容をプレゼンで競い合う、学生を主体とするチーム対抗の研究報告の全国大会だ。出場チームの研究テーマは、原則として「国際ビジネス」に関連するものとしている。論文執筆要項や論文審査項目、プレゼンテーションの審査項目など細かに定められており、ルールに則り発表を行う。大会はまず、予選を行い、予選突破できたチームのみ本選出場することができる。



昨年参加した内堀ゼミ

12月9日に立教大学において行われた。東北大学、慶應義塾大学、東京理科大学、明治大学など12大学16ゼミナール27チームが参加。本学からは内堀敬則ゼミが「スタートアップ成功・促進の条件とは何か—ユニコーン企業の動向から見た将来展望—」、「ライフコースの多様化から見られる女性の消費—実証研究から浮上する将来シナリオと課題—」、鈴木仁里オと課題「アジア市場開拓に向けた日本農産物のネガティブイメージ払拭プロモーション戦略に関する探索的研究—グローバル消費者特性の理解—」、「おもてなし概念研究におけるデモグラフィック特性細分化アプローチの可能性—真のおもてなしを目指して—」は、プレゼン賞を受賞し、大きな成果を残すことができた。今年も本学学生の活躍が期待される。



立教大学 第一食堂での参加大学全員の集合写真(昨年会)



昨年参加した鈴木ゼミ

ト調査等で検証のうえ、結論を導き出し、発表するという社会科学のスキルの実践経験は社会に出てからこそ生かすこととなります。研究仲間はゼミ内だけでなく、大会を通して全国の大学にまで広がることになり、一連の経験は学生たちにとって大きな財産になると思います。本学は第一回大会から出場しており、年々規模が拡大するなか大きな成果を収めています。本年度は本学が主催校なので、全国から集う学生たちにブルス・ウルトラのスピリットで挑戦を寄せている。

学校法人白鷗大学 2018年度決算報告

【事業活動収支計算書】2018年4月1日から2019年3月31日まで

事業活動収支計算書は、経営の状況について表したものであり、企業会計における「損益計算書」に近似したものです。2018年度の基本金組入前当年度収支差額は、2億9,775万円の収入不足となりました。

(単位：円)

教育活動収入の部	科目			
	予算額	決算額	差異	
学生生徒等納付金	6,295,908,400	6,265,697,940	30,210,460	主として入学検定料です。
手数料	173,030,000	202,274,692	△ 29,244,692	
寄付金	21,500,000	25,587,751	△ 4,087,751	
経常費等補助金	1,008,926,000	1,173,257,655	△ 164,331,655	主として大学への補助金です。
国庫補助金	370,000,000	478,308,000	△ 108,308,000	
地方公共団体補助金	638,926,000	694,949,655	△ 56,023,655	主として高校、中学、幼稚園への補助金です。
付随事業収入	21,900,000	22,716,362	△ 816,362	
雑収入	276,200,000	277,896,232	△ 1,696,232	
教育活動収入計	7,797,464,400	7,967,430,632	△ 169,966,232	
支出の部	科目			
	予算額	決算額	差異	
人件費	3,859,070,000	3,821,582,005	37,487,995	
教育研究経費	3,755,358,000	3,593,943,947	161,414,053	減価償却費を含んでいるため資金収支計算書と異なります。
管理経費	878,928,687	848,418,651	30,510,036	
徴収不能額等	0	0	0	
教育活動支出計	8,493,356,687	8,263,944,603	229,412,084	
教育活動収支差額	△ 695,892,287	△ 296,513,971	△ 399,378,316	
教育活動外収入の部	科目			
	予算額	決算額	差異	
受取利息・配当金	164,300,300	191,916,409	△ 27,616,109	
その他の教育活動外収入	0	0	0	
教育活動外収入計	164,300,300	191,916,409	△ 27,616,109	
支出の部	科目			
	予算額	決算額	差異	
借入金利息	32,468,533	32,468,533	0	
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	32,468,533	32,468,533	0	
教育活動外収支差額	131,831,767	159,447,876	△ 27,616,109	
經常収支差額	△ 564,060,520	△ 137,066,095	△ 426,994,425	主として有価証券の売却益です。
特別収入の部	科目			
	予算額	決算額	差異	
資産売却差額	39,300,000	39,701,443	△ 401,443	
その他の特別収入	3,200,000	6,497,405	△ 3,297,405	施設設備への寄付金250万円、現物寄付金287万円、損害保険金112万円です。
特別収入計	42,500,000	46,198,848	△ 3,698,848	
支出の部	科目			
	予算額	決算額	差異	
資産処分差額	118,943,913	206,891,617	△ 87,947,704	
その他の特別支出	0	0	0	
特別支出計	118,943,913	206,891,617	△ 87,947,704	
特別収支差額	△ 76,443,913	△ 160,692,769	84,248,856	
[予備費]	0	-	0	
基本金組入前当年度収支差額	△ 640,504,433	△ 297,758,864	△ 342,745,569	
基本金組入額合計	△ 1,161,000,000	△ 898,406,631	△ 262,593,369	
当年度収支差額	△ 1,801,504,433	△ 1,196,165,495	△ 605,338,938	
前年度繰越収支差額	△ 6,358,867,815	△ 6,358,867,815	0	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 8,160,372,248	△ 7,555,033,310	△ 605,338,938	
(参考)				
事業活動収入計	8,004,264,700	8,205,545,889	△ 201,281,189	
事業活動支出計	8,644,769,133	8,503,304,753	141,464,380	

2018年度決算について掲載します。この決算書は法人全体のものです。

事業概要

法人創立100周年記念事業の一環である校舎再整備により、本キャンパス新棟が昨年竣工し、経営学部の学生及び事務組織の大半が大行寺キャンパスから本キャンパスにシフトしました。また、大行寺キャンパスにおいては老朽化が懸念されていた5号10号館を解体しました。その跡地につきましては緑地化を予定しております。また、1号4号館及び本館については、学生が学びやすい動線になるように改修を行い、正門入口すぐのロータリーについても整理を行う予定となっております。

今後における課題としては、足利高等学校富田キャンパスの校舎や、足利中学校の建物の環境整備等があります。ただし、昨今の少子化問題を踏まえた上で慎重に取り組んでいかなければならない重要な課題です。また、今年度の卒業生の就職率は前年対比で増加しており、公務員をはじめ様々な業界への就職をしております。全国平均と比較しても上回っており、これから大学進学をされる方には目安となる指標となりうることであります。

決算概要

事業活動収支において、収入面では学生生徒等納付金が前年度比75百万円増加し62億66百万円となりました。経常費補助金は前年比27百万円減少し11億73百万円となりました。一方、費用面では、教育研究経費が減価償却費の増加や建物の管理費の増加等により4億70百万円増加し35億94百万円となり、管理経費も1億64百万円増加し8億48百万円となりました。本業である教育活動の収支状況を表す教育活動収支差額は5億12百万円増加し、▲2億97百万円となりました。

また、資産の売却差額は2億23百万円の減少、設備補助金は1億34百万円の減少もあり、さらに特別収入が3億73百万円減少したこと等から、基本金組入前当年度収支差額は、11億13百万円減少し、▲2億98百万円となりました。

資金収支としては、収入の部が補助金の減少や有価証券の売却の減少、追加借入を行っていない等により49億85百万円の減少となりました。支出の部は設備投資の減少や特定資産への繰入の減少等により49億85百万円の減少となりました。その結果、翌年度繰越支払資金は、4億67百万円減少し、28億72百万円となりました。貸借対照表としては、減価償却等や建物(大行寺キャンパス5号館10号館)及びそれに付随する構築物の除却等により固定資産が3億16百万円減少しました。流動資産は、借入金の返済額が3億円増加等により8億41百万円減少しました。一方、負債の部も8億59百万円減少しました。

【貸借対照表】2019年3月31日

貸借対照表は、学校法人の期末における資産と負債・基本金・繰越収支差額の状況を表示して、財政状態を表しています。資産総額から負債総額を差し引いた「正味財産」は2億9,776万円減少し、345億2,313万円となりました。

(単位：円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	35,223,894,237	35,539,914,665	△ 316,020,428
有形固定資産	30,254,515,708	30,547,900,952	△ 293,385,244
土地	5,904,030,229	5,904,030,229	0
建物	20,311,222,669	20,510,469,592	△ 199,246,923
構築物	1,230,713,598	1,358,710,041	△ 127,996,443
教育研究用機器備品	1,274,358,476	1,168,479,942	105,878,534
管理用機器備品	298,504,016	256,816,969	41,687,047
図書	1,184,654,916	1,159,888,172	24,766,744
車両	51,031,804	80,537,109	△ 29,505,305
建設仮勘定	0	108,968,898	△ 108,968,898
特定資産	4,336,283,840	4,347,805,843	△ 11,522,003
第2号基本金引当特定資産	0	0	0
退職給与引当特定資産	880,749,081	800,749,081	80,000,000
減価償却引当特定資産	3,455,534,759	3,547,056,762	△ 91,522,003
その他の固定資産	633,094,689	644,207,870	△ 11,113,181
借地権	291,394,657	291,394,657	0
投資有価証券	4,944,153	2,247,300	2,696,853
その他の	336,755,879	350,565,913	△ 13,810,034
流動資産	5,370,769,890	6,211,401,317	△ 840,631,427
現金	2,872,413,832	3,339,069,640	△ 466,655,808
預金	2,170,382,198	2,254,620,948	△ 84,238,750
有価証券	327,973,860	617,710,729	△ 289,736,869
その他	0	0	0
資産の部合計	40,594,664,127	41,751,315,982	△ 1,156,651,855
負債の部			
固定負債	3,686,169,151	4,410,677,597	△ 724,508,446
長期借入金	2,800,000,000	3,600,000,000	△ 800,000,000
退職給与引当金	886,169,151	810,677,597	75,491,554
流動負債	2,385,359,996	2,519,744,541	△ 134,384,545
短期借入金	800,000,000	500,000,000	300,000,000
受取金	1,222,129,269	1,261,579,269	△ 39,450,000
その他	363,230,727	758,165,272	△ 394,934,545
負債の部合計	6,071,529,147	6,930,422,138	△ 858,892,991
純資産の部			
基本金	42,078,168,290	41,179,761,659	898,406,631
第1号基本金	41,588,168,290	40,689,761,659	898,406,631
第2号基本金	0	0	0
第4号基本金	490,000,000	490,000,000	0
繰越収支差額	△ 7,555,033,310	△ 6,358,867,815	△ 1,196,165,495
翌年度繰越収支差額	△ 7,555,033,310	△ 6,358,867,815	△ 1,196,165,495
純資産の部合計	34,523,134,980	34,820,893,844	△ 297,758,864
負債及び純資産の部合計	40,594,664,127	41,751,315,982	△ 1,156,651,855

土地と図書以外の有形固定資産については、減価償却累計額を控除して表示しています。

減価償却及び大行寺キャンパス5号10号館の除却による減少です。

建物へ振替えをしたための減少です。

退職スタッフの退職金に備えるものです。

主として、ソフトウェアの減価償却による減少です。

昨年度の国庫補助金は未収入金として計上したが、年度内に入金になっているため未収入金が減少しています。

借入返済に伴い、短期借入金へ振替えたための減少です。

長期借入と短期借入を合算すると5億円の元金返済をしています。

固定資産の維持取得に係る基本金です。

必要な運転資金維持に係る基本金です。

【資金収支計算書】2018年4月1日から2019年3月31日まで

資金収支計算書は、一年間の収入・支出ごとの資金の流れの総額を表したものであり、企業会計における「キャッシュフロー計算書」に近似したものです。資金収支の総額は131億6,283万円であり、2019年度への繰越支払資金は28億7,241万円となっております。

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
学生生徒等納付金収入	6,295,908,400	6,265,697,940	30,210,460
手数料収入	173,030,000	202,274,692	△ 29,244,692
寄付金収入	21,800,000	28,086,182	△ 6,286,182
補助金収入	1,008,926,000	1,173,257,655	△ 164,331,655
国庫補助金収入	370,000,000	478,308,000	△ 108,308,000
地方公共団体補助金収入	638,926,000	694,949,655	△ 56,023,655
資産売却収入	291,247,300	365,554,346	△ 74,307,046
付随事業・収益事業収入	21,900,000	22,737,481	△ 837,481
受取利息・配当金収入	161,800,300	189,478,279	△ 27,677,979
雑収入	276,200,000	279,023,497	△ 2,823,497
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,171,000,000	1,222,129,269	△ 51,129,269
その他の収入	2,267,692,710	1,573,627,273	694,065,437
資金収入調整勘定(注)	△ 1,503,279,269	△ 1,498,099,589	△ 5,179,680
前年度繰越支払資金	3,339,069,640	3,339,069,640	0
収入の部合計	13,525,295,081	13,162,836,665	362,458,416

支出の部

科目	予算額	決算額	差異
人件費支出	3,780,970,000	3,746,090,451	34,879,549
教育研究経費支出	2,610,458,000	2,465,533,717	144,924,283
管理経費支出	702,828,687	670,182,441	32,646,246
借入金等利息支出	32,468,533	32,468,533	0
借入金等返済支出	500,000,000	500,000,000	0
施設関係支出	726,270,000	682,821,800	43,448,200
設備関係支出	562,000,000	430,258,724	131,741,276
資産運用支出	1,831,993,600	1,227,148,169	604,845,431
その他の支出	827,765,272	837,319,014	△ 9,553,742
[予備費]	(43,538,687)	-	43,538,687
資金支出調整勘定(注)	△ 302,149,263	△ 301,400,016	△ 749,247
翌年度繰越支払資金	2,246,228,939	2,872,413,832	△ 626,184,893
支出の部合計	13,525,295,081	13,162,836,665	362,458,416

(注) 資金収入調整勘定及び資金支出調整勘定について

学校法人会計における資金収支計算の目的は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容当該会計年度における支払資金の収入及び支出とそとの年末を明らかにすることとされています。そのため収入・支出ともに調整勘定が設けられています。なお、資金収入調整勘定には期末未収入金及び前期末前受金、資金支出調整勘定には期末未払金及び前期末前払金を計上しています。

主として入学検定料です。

主として大学への補助金です。

主として高校、中学、幼稚園への補助金です。

減価償却費を含んでいるため資金収支計算書と異なります。

主として有価証券の売却益です。

施設設備への寄付金250万円、現物寄付金287万円、損害保険金112万円です。

有価証券の売却収入です。

主として平成31年度入学者の入学料、授業料等の学生納付金です。

主として特定資産の償還収入です。

主として大学校舎の改修資金の支払です。

主として大学の機器備品の支払です。

特定資産の償還に対する代替購入によるものです。



「小笠原先生がとちぎの未来を聞かれてみたら」

小笠原伸 (白鷗大学ビジネス開発研究所所長／経営学部教授)

今年の6月から地元栃木県の県域ラジオ局 Radio Berry / FM栃木で「小笠原先生にとちぎの未来を聞いてみよう」という週10分のミニ番組を担当している。都市戦略研究を専門とすることからイノベーションや地方創生、地域活性化などでひとつキーワードを設定して専門的なことをも扱いつつ、地域の未来についてお聞きの皆さんに考えていただける場を提供している。大学の中で考えている事は案外地域の皆さんには伝わりにくい。だとするならば大学の側から地域の皆さんの現場に向いてゆく必要がある。この番組はその点では大学が社会に試されていると考えることもできる。

例えば、みんなで頑張るって地域を元気にしようという取り組みがそのまま地域の元気に本場につながるかというと、はいささか怪しい。地方創生の現場では経験をもとにした取り組みに加えてどのようにデータを活用した観点を取り入れ行動するかが常識となりつつある。自分らの地域がどのような傾向を示しているのか、産業の具合はどうか、そして地域振興の手法はどのようなものを選び実行してゆくのか、そこから地方創生の筋道は問われるのが現在の最前線である。無闇な地域活性化では残念ながら成果が出ないのも現実である。

内閣官房は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で「しごとがひとを呼び、ひとがしごとを呼ぶ好循環をどう確立するか」と記している。ゆるキャラやB級グルメに熱心に取り組みむのもほほえましい姿ではあるが、必要なことはどのように自分らの設定したミッションをクリアするのかわかり、そこにはすでに我々には「若者と女性」という課題が政府機関から課されている。その点では、地元自治体すらその課題の意味を本当に理解しているかは難しい。市民の多様な知恵を地域社会の中で集め、それぞれに考えてゆかなければいけないのはそういう背景もある。

北関東でも多くの自治体では人口の減少が始まっている。そのことに気づきつつも、現実的には多くの方々が現状を変えることができず昨日の延長線上に今日も生活している。この現場に大学はどのように関わっていくことができるものか。白鷗大学の学生は非常によく勉強し考え行動し社会のリアリティーとつながっている。私が番組内で話す内容の多くは学生諸君から喚起され構成されている。すなわち北関東の未来とは白鷗大学で学んでいる学生の未来に他ならない。だとするならば、学生の危機感や希望、更には社会への変革精神が何らかの形で地域の皆さんや企業の関係者に直接的に間接的につながっていくことを期待したい。

経営学部向けには「創造都市論」「新産業創造論」という専門科目を、そして教育学部、法学部の学生も聴講できる「NPO論」という科目を担当している。更に一般教養科目としてフィールドに出て社会の課題解決を考える「ソーシャルデザイン論」などを持っている。社会の現場に課題を発見し、解決に向け動くスキルを教えることができるのも都市戦略を考えるに望ましいことだ。その意味で北関東には多くの現場が待っている。

ラジオ番組はそのきっかけでしかない。深刻な顔をして講じていくとどうにも出口が見えなくなるが、学生の知恵と活力と笑顔でこの難局を乗り越えることができることだろう。白鷗大学は生まれ変わった。さあその成果を地域の皆さんにご覧いただきたいと大学とながってもらうのが次の段階だ。晴れて白鷗大学の門を叩き、小山駅前キャンパスでお会いできるのを楽しみにしている。



ラジオに出演中の小笠原教授(中央)

学位記・卒業証書 1085人に授与



卒業生代表挨拶をする 末村さん

3月16日、大行寺キャンパス第一体育館で平成30年度学位記・卒業証書授与式が挙行され、1085人の卒業生が本学から飛び立っていった。

学部卒業生の代表者に、奥島孝康学長から証書が授与されたほか、卒業生代表挨拶では経営学部の末村友季奈さんが「経営学の楽しさを知りゼミの仲間と切磋琢磨した時間と協定校であるトライイン大学への留学は、私を大きく変えてくれた」と謝辞を述べ、ハンドベルクワイアによる祝典演奏などが行われた。

1291人の新入生を迎え入学式



4月1日、大行寺キャンパス第一体育館で2019年度入学式が挙行された。大学院生を含む、1291人が新たに白鷗生となり、新年度をスタートさせた。奥島孝康学長は、「これからの社会は、競争から『共創』へ、共存から『共生』へ進みます。その方向性は、本学のモットー『プルス・ウルトラ』によって育てられることにならざるを得ない。大学での青春を素直に満喫してください。楽しくなければ大学生活ではない」と新入生を激励した。

なお、白鷗大学の入試の志願者数は増え続けており、今年度で7年連続の増となった。大手進学サイトのBenesseマナビジョンによる本学の偏差値は、58と50と

教員人事

【退職】(2019年3月31日付)	経営学部 教授 師 啓二	法学部 教授 新川 清治
	経営学部 教授 針生 進	教育学部 准教授 関戸 冬彦
	教育学部 教授 岡田 順太	教育学部 准教授 佐藤ちひろ
	教育学部 教授 山本厚太郎	【昇格】(2019年4月1日付)
	教授 川瀬 善美	経営学部 教授 山田 徳彦
	講師 Jeffrey Miller	教授 張 承玖
	講師 Harry Harris	准教授 川上代里子
【新任】(2019年4月1日付)	経営学部 准教授 新井佐恵子	法学部 教授 白石 智則
	特任教授 下村 健一	教育学部 教授 榎本 哲士
	准教授 國方 俊男	准教授 森 好伸
	准教授 古瀬 一隆	

- からだの細菌 キャラクター図鑑 岡田晴恵(教育学部特任教授)監修 2019年6月刊/80頁/日本図書センター/1,620円
- バスケセンスが身につく88の発想 網野友雄(教育学部講師) [ほか]編 2019年4月刊/208頁/東邦出版/1,512円
- 危機の政治的余波と危機管理の管理 児玉 博昭(法学部教授)著 2019年3月刊/316頁/日本評論社/4,860円
- 条文から学ぶ独占禁止法 栗田 誠(法学部教授) [ほか]編 2019年4月刊/382頁/有斐閣/2,916円

教員著書紹介